

丹波市図書館基本計画 (第4次子ども読書活動推進計画)

(素案)

令和8年3月 丹波市教育委員会

～目 次～

はじめに

〔後日加筆修正〕

近年、少子化に伴う人口減少や高齢化、様々な分野におけるデジタル化の進展など、社会がめまぐるしく変化する中、人々の価値観やライフスタイルが多様化し、図書館のあり方やサービスも大きな影響を受けています。また、新型コロナウイルス感染症の拡大は、国際情勢の不安定化という予測困難時代の象徴ともいべき事態を生じさせ、教育分野においても大きな変化をもたらしました。

図書館は、豊富な資料を有する生涯学習の拠点ですが、市民が気軽に集える場や居心地よく豊かな時間を過ごせる場としての役割も期待されるなど、人と人とのつながりを大切にし、まちのにぎわいを生み出す拠点としてのあり方も求められているところです。

このたび、「市民に寄り添い、ともに学び、つながる、つくる みんなの図書館」を基本理念として、その運営方針に沿った図書館運営を進めるため、「丹波市図書館基本計画」を策定いたしました。市民の声に耳を傾け、図書館でつながりを持ち、市民が図書館運営にかかわることができるような図書館づくりを進めてまいります。

結びに、本計画の策定にあたり、ご意見をお寄せいただいたり、ご協力をいただきました市民の皆さんをはじめ、専門的な立場から活潑なご意見をいただきました丹波市図書館基本計画策定委員会の委員の皆さんに心から御礼申し上げます。

1. 丹波市図書館基本計画策定の背景

丹波市は、令和3年3月に策定した「丹波市子ども読書活動推進計画（第3次）」について、令和7年度に計画期間が終了することに伴い、子どもたちを取り巻く社会情勢の変化や時代のニーズに対応した図書館施策の展開を進めるとともに、令和6年度に策定した「丹波市図書館ビジョン」に定める運営方針に基づいた図書館運営を行うため、丹波市図書館基本計画策定委員会の意見を反映させたうえで、図書館運営の指針となる「丹波市図書館基本計画」を策定しました。

本計画は、第3次丹波市総合計画に基づく分野別計画に位置づけられ、今後5年間の図書館運営やサービス等の方向性を具体的に示したものです。

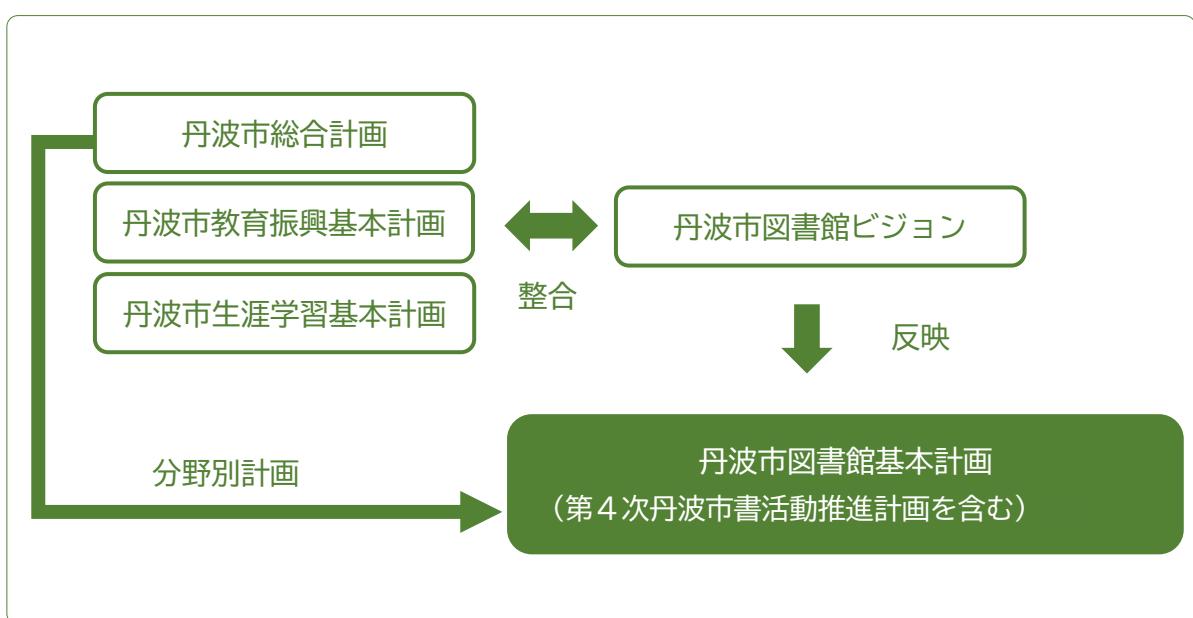
2. 丹波市図書館基本計画の位置づけと計画期間

（1）丹波市図書館基本計画の位置づけ

丹波市図書館基本計画は、第3次丹波市総合計画や第3次丹波市教育振興基本計画等の上位計画と整合を図りながら、丹波市立図書館の方向性や方針を定めた丹波市図書館ビジョンに基づき、具体的な運営計画として策定しています。

市民の誰もが自主的に読み、知ることができる環境を整え、読書活動、知的探求、課題解決を支援することを規定するとともに、第4次丹波市子ども読書活動推進計画を内包する計画となっています。

図 関係計画との位置づけ



（2）丹波市図書館基本計画の期間

丹波市図書館基本計画は、令和8（2026）年度から令和12（2030）年度の5年間の期間とし、計画期間中においても必要に応じて見直しを行うものとします。

具体的な施策を示した実施計画は、毎年度見直すものとします。

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
基本理念										
運営方針										
基本計画										
実施計画										

第2章 丹波市立図書館の現状と課題について

1. 丹波市立図書館と子どもの読書活動を取り巻く状況

（1）丹波市立図書館の状況

丹波市立図書館は、平成16（2004）年の市町村合併以来、地域ごとに分館を設置している点が特徴です。中央図書館を除く5館は住民センター等との複合施設で、子育て学習センターと併設となっている分館も多く、こどもたちのための事業を共同開催できるなどの利点があります。

6つの図書館のうち、閉架書庫を備えているのは中央・青垣・市島の3館のみで、開架・閉架書庫を含め6館すべての書架に余裕がない状態です。いずれの施設も老朽化が進んでおり、施設や設備を修繕しながら運営しています。

【各図書館施設の状況】

施設	建築年	面積（m ² ）	施設状況
中央図書館	平成8年	1,223.8	単独館
柏原図書館	平成13年	248.7	複合館（柏原住民センター内）
山南図書館	平成8年	245.0	複合館（山南住民センター内）
青垣図書館	平成17年	360.0	複合館（青垣住民センター内）
春日図書館	昭和51年	276.8	複合館（春日住民センター内）
市島図書館	平成7年	479.5	複合館（ライフピアいちじま内）

【蔵書冊数（令和7年3月31日時点）・各館】

施設	蔵書冊数	開架冊数	一般書	児童書
中央図書館				
柏原図書館				
山南図書館				
青垣図書館				
春日図書館				
市島図書館				

1年間に1度でも貸出サービスを利用した有効登録者数は、平成27（2015）年度の9,048人から令和6（2024）年度には6,495人と約2,500人（約28%）減少、個人貸出の総数も平成27年度の388,694冊から令和6（2024）年度には323,162冊と約65,000冊（約16%）減少しています。

【有効登録数の推移（全体）】

年度	有効登録者数（人）	個人貸出総数（冊）
平成27年度	9,048	388,694
平成28年度	8,634	361,758
平成29年度	8,429	358,476
平成30年度	8,205	350,098
令和元年度	7,890	355,468
令和2年度	6,215	295,624
令和3年度	6,578	346,368
令和4年度	6,595	335,402
令和5年度	6,495	323,162
令和6年度		

（2）子どもの読書活動の状況

「丹波市図書館基本計画」には、「第4次丹波市子ども読書活動推進計画」を含有しています。第3次計画の目標数値については下記のように推移しています。

【0歳から18歳人口一人あたりの年間貸出冊数】

年度	貸出冊数（冊）
令和元年度	8.0冊
令和3年度	
令和6年度	
令和7年度 (目標値)	10.0冊

【0歳から18歳の登録率（登録者数／当該年齢人口×100】

年度	登録率（%）
令和元年度	54.2%
令和3年度	
令和6年度	
令和7年度 (目標値)	60.0%

【0歳から18歳の有効登録率（有効登録者数／当該年齢人口×100】

年度	有効登録率（%）
令和元年度	20.9%
令和3年度	
令和6年度	
令和7年度 (目標値)	25.0%

1. 丹波市立図書館と子どもの読書活動の課題

(1) 丹波市立図書館の課題

上述のとおり、有効登録数が年々減少し、丹波市人口の1割程度しか利用していない事、利用者の高齢化・固定化が大きな課題です。

また、令和6年度に「丹波市図書館ビジョン」を策定するにあたり、丹波市民アンケート（無作為抽出）、図書館利用者アンケート、市民ワークショップ等を通じて市民ニーズの把握に努めました。

多岐にわたる課題がありましたが、図書館基本計画の策定にあたり改めて検証し、下記のように課題整理を行っています。

【課題整理】

- ・図書館サービスや図書館イベントの積極的な広報周知
- ・話題の本や最新の本をそろえた蔵書
- ・市民の困りごとや課題を相談しやすいレファレンスサービスの充実
- ・子どもたちが本に触れ、親しみを持つためのきっかけづくり
- ・読み聞かせなどを通じ、家族のきずなを深め、ともに学ぶことの支援
- ・子どもたちの読書活動の推進のため、学校図書館との連携、支援
- ・社会教育施設との連携による学びの探求の支援
- ・様々な事情により来館できない方への図書館サービスの充実
- ・市民の多様なライフスタイルに合わせた柔軟な運営
- ・講演会やおはなし会などのイベントを活用した市民の来館促進
- ・本の利用だけではない図書館での居場所づくり
- ・図書館サポーター・ボランティアグループの図書館との関わり方
- ・市民の図書館運営への参画と協働
- ・様々なイベントや本を介した取組によるつながりづくりの推進
- ・社会環境の変化や市民の知的要求に柔軟に対応できる運営

- ・電子図書館サービスの認知度
- ・公共図書館と学校図書館のシステム連携（所蔵情報等の共有）
- ・市内高等学校との連携

(2) 子どもの読書活動についての課題

子どもの読書活動については「第3次丹波市子ども読書活動推進計画」に基づき取り組んでいるところです。その課題を下記に整理しています。

①家庭・地域における子どもの読書活動の課題

後日記載

②子育て支援施設等における読書活動の課題

後日記載

③小・中学校における子どもの読書活動の課題

後日記載

④図書館における子どもの読書活動の課題

後日記載

また、市内小中学校の児童生徒を対象に「子ども読書アンケート」を実施しました。その結果から見えてきた課題については下記のとおりです。

後日記載

「丹波市図書館ビジョン」において「基本理念（グランドビジョン）」「運営方針」を下記のように定めました。「丹波市図書館基本計画」では、これらを具体化するためのアクションプランを定めます。

1. 基本理念（グランドビジョン）

『市民に寄り添い ともに学ぶ、つながる、つくる みんなの図書館』

【めざす姿】

・ [乳幼児期（0～6歳児と保護者）]

乳幼児が周りの人に本を読んでもらう温かい体験をしながら成長しています。
保護者も絵本などの読み聞かせをこどもと一緒に楽しんでいます。

・ [小学生（7～12歳）]

たくさんの本にふれながら、自分の好きな本を自由に選んでいます。

・ [中学生（13～15歳）]

読書を楽しみながら、自分で学び、調べる力を身につけています。

・ [高校生（16～18歳）]

自分の将来やキャリアについて必要な情報を得ながら、可能性を広げています。

・ [19歳代～60歳代]

個人や地域の課題解決に図書館を利用する人がふえ、レファレンスサービスなどの図書館機能を使いこなしています。

- ・[60歳代以上]

地域と関わりながら、生きがいをもって学びを続けるために図書館を利用して
いる人が増えています。

- ・[外国にルーツを持つ方（多文化共生）]

やさしい日本語などわかりやすい案内で必要な情報を得ながら、多様な価値観
や文化を持った人々が生活しています。

- ・[障がいのある方（読書のバリアフリー）]

身近な図書館を通じて、自分の利用しやすい形式で必要な本や情報を得る人が
増えています。

- ・【さまざまな理由で来館が困難な方（読書のバリアフリー）】

来館しなくとも利用できるたんばし電子図書館を利用したり、必要な本が届く
仕組みを利用しています。

- ・[]

- ・[]

- ・[]

2. 6つの運営方針に基づくアクションプラン

(1) 市民の暮らしや活動に役立つ、地域の情報拠点としての図書館

運営方針に基づく取組	運営方針を具体化する計画	めざす姿
・市民の「知りたい」に応える魅力ある蔵書の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に即した情報（防災・健康・子育て・就労など）提供 ・府内関係部署と連携し、さまざまな障がいや特性のある人が利用しやすい資料のニーズを把握 ・来館が困難な方へ本を届けるサービスの検討 ・年間を通じたテーマ別展示 ・郷土資料のデジタルアーカイブ化の着手 ・地域の情報探索力を高める講座の実施 ・開架書架の収容冊数を見直し、開架スペースで情報発信を増加 	・市民の誰もが自分の課題を解決するため、図書館を使いこなしています。
・市民の困りごとや課題を相談しやすい、レファレンスサービスの推進	・レファレンスサービスがどのように役に立つか、わかりやすく市民や利用者に広報	・図書館職員に、気軽にレファレンスを依頼する人が増えています。
・図書館の取り組みが伝わる、市民に合わせた情報発信の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館インスタグラムの開始 ・図書館キャラクター、グッズの制作 ・図書館イベントの発信 ・図書館年報によるわかりやすい情報公開 	・図書館が本を借りるだけの施設ではないと知り、気軽に来館する市民が増えています。

・		
・		

(2) こどもの読書環境の推進に取り組む図書館（こどもの読書活動推進）

運営方針に基づく取組	運営方針を具体化する計画	めざす姿
・こどもたちが本に親しむ機会の提供	<p>[乳幼児とその保護者]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタート事業の継続（4ヶ月健診会場で実施） ・子育て支援施設等との連携・協力（出張おはなし会やブックトーク、児童書等の団体貸出） <p>[小学生]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な本や情報を得ることができるよう情報提供、学校図書館と連携 <p>[高校生や10代]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この世代の興味関心に沿ったイベントや資料の充実 <p>・「こども司書養成講座」や「夏休み一日図書館員」の継続開催</p> <p>・児童生徒が主体的に企画運営する「こども発信型」読書活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期から周りの人に絵本を読んでもらい体験の大切さが理解されています。 ・子育て支援施設等との連携・協力（出張おはなし会やブックトーク、児童書等の団体貸出） ・本に親しみ、自分で情報を調べる力を身につけています。 ・高校生や10代の来館が増えています。 ・講座やイベントを通して読書活動のリーダーとなったこどもたちが、読書の楽しさや図書館の使い方をまわりのこどもたちに伝えています。
・本を通じた家族の絆を深めるために家庭教育支援の推進	・保護者向けの読書活動推進（読み聞かせ等）の講座開催	・家庭で一緒に楽しむための絵本を、気軽に図書館職員と相談しながら選ぶ家族が増えています。

		<ul style="list-style-type: none"> ・年齢に合った絵本のえらび方や読み聞かせの講座を受講し、家庭で読み聞かせを行う保護者が増えています。
・こどもたちの教育環境の充実のために、学校図書館支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館を活用した調べ学習、読書活動の支援（市立図書館から学校図書館へ団体貸出等） ・学校司書配置のあり方を検討 ・学校図書館と市立図書館の定期的な連絡会 ・学校図書館の蔵書整備と電算化（市立図書館との情報共有） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館の蔵書や市立図書館の蔵書が使いやすく整備され、調べ学習や読書活動で活発に利用されています。
・		
・		

(3) すべての市民が利用しやすい、便利な図書館

運営方針に基づく取組	運営方針を具体化する計画	めざす姿
・「本を届ける」アウトリーチサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトリーチが必要な対象者を整理し届ける方法を検討する（来館困難者へのサービス展開） ・自治協議会等と連携した身近な本のあるスポット整備検討 ・移動図書館導入の検討 	・図書館に来ることがむづかしい人も、自宅や近くの施設等で、読みたい本や情報を得ることができている。
・来館せずに利用できる、電子図書館サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・電子図書館の整備と利用促進（わかりやすい広報） 	・必要な人に電子図書館サービスの情報が届き、電子図書館を利用する人が増えています。
・市民の多様なライフスタイルに対応できる、柔軟な運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・開館日や開館時間の変更（延長等）の柔軟な運営検討 	・今までライフスタイルに合わず図書館を利用できなかつた人も図書館を利用しています。
・		

（4）すべての市民が安心して過ごせる、居場所としての図書館

運営方針に基づく取組	運営方針を具体化する計画	めざす姿
・様々なイベントを開催し、市民が立ち寄るきっかけづくり	・本に関連した内容だけでなく、様々なイベントを市民企画も含めて開催	・様々なイベントがきっかけとなり図書館に立ち寄る市民が増えています。
・本の利用だけではない、誰もが気軽に立ち寄ることができる空間や環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な利用者がそれぞれ快適に過ごせるレイアウトやゾーニングの工夫 ・無料 Wi-Fi や電源など滞在型図書館に必要な設備整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人が本を借りる以外の目的でも来館し、利用目的により気兼ねなく過ごしています。 ・学習やビジネス利用など長時間図書館内で過ごす人が増えています。
・市民に寄り添う、心地よい居場所づくり	・みんなが心地よく安心して過ごせる居場所としての図書館の将来像を市民協働で検討継続	・図書館が市民の安心できる居場所になっています。
・		
・		

(5) 市民協働で運営するみんなの図書館

運営方針に基づく取組	運営方針を具体化する計画	めざす姿
・図書館の運営を支えるボランティア、サポートなどの人材育成の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館センター養成講座を継続開催（お試し参加制度） ・ボランティアの活動分野多様化（イベント企画・広報など） ・読み聞かせボランティアのスキルアップのための講座を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館センターや読み聞かせボランティアとして活躍し、図書館運営に参画する人が増えています。 ・スキルアップした成果を活かして、活動の幅が広がっています。
・市民の声を踏まえた図書館運営の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館長の諮問機関である図書館協議会を開催 ・図書館利用者アンケートを定期的に実施 ・みんなが快適に過ごせる居場所としての図書館の将来像を市民協働で検討継続 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の声を踏まえ、図書館運営が検討・見直されています。
・市民がつながれる図書館運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・市民がゆるやかにつながりながら、自主企画等で図書館運営に参画できる仕組みやサポート体制を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民がつながりを活かし、意見を出し合いながら、イベント企画や図書館運営に関わっています。
・		
・		

(6) まちの変化に対応する図書館

運営方針に基づく取組	運営方針を具体化する計画	めざす姿
・まちの変化に合わせた、図書館ネットワークの構築	<p>[多文化共生]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国にルーツを持つ市民の増加に考慮し府内関係部署と連携し、現状やニーズの把握を行う。 ・多言語による資料の充実や「やさしい日本語」による案内表示、イベント企画 ・まちの変化を予想した資料整備や情報発信（人口減少社会、デジタル化加速、災害・感染症） 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な背景をもつ市民が図書館を利用しています。 ・まちの将来に役立つ情報を備え、状況に合わせて図書館機能を持続しています。
・情報格差（デジタルデバイド）解消に向けた支援サービスの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット検索用端末の設置および操作支援 ・電子図書館サービスを利用するための操作支援 	・誰もが必要な情報を得ることができます。
・柔軟で持続可能な図書館運営の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館職員が図書館に求められる新たな役割に対応できるよう研修を実施 ・開館日や開館時間の変更（延長等）の柔軟な運営検討 	・図書館職員が、市民や利用者が必要な情報を得るための支援を行うことができています。
・		
・		

4. 図書館運営の評価方法

丹波市立図書館では、運営状況を評価する指標として下記を用いることとします。

（1）来館者数 [丹波市立図書館6館合計の来館者数]

令和7年7月から市内6館で来館者数の計測を始めました。図書館基本計画期間に、図書館に立ち寄るきっかけになるようなイベントや講座開催により、来館者数が（ ）倍になることを目指します。

指標	基準値	目標値
	令和7年度（推計）	令和12年度
来館者数 (6図書館合計)		

※来館者数は図書館業務統計より算出

（2）有効登録者率

[丹波市の人口のうち、1年に1度でも図書館資料を借りた人の割合]

指標	基準値	目標値
	令和6年度	令和12年度
有効登録者数 (6図書館合計)	%	○%

※図書館業務統計より算出（電子図書館を含む）

（3）協働で実施した事業の数と参加人数

指標	基準値	目標値
	令和6年度	令和12年度
事業の数	2回 (読み聞かせグループと 協働したおはなし会)	○回

（4）アンケート結果からの指標を後日検討（9月上旬アンケート実施予定）

（例「こども読書アンケートで読書が好きと回答した児童生徒の人数」など）

5. 構成図・職員配置図

後日挿入